

大学院「入院」生のための論文の書き方・研究方法論等の私的推薦図書(2018年度版, ver.20)

二木 立 (日本福祉大学相談役・名誉教授)

※ 医療・福祉マネジメント研究科の4月13日の「統一導入講義」と社会福祉学研究科(通信教育)の4月7日スクーリングで用いるので、必ず持参すること。

本講義への他研究科の院生の聴講も歓迎します。

- 「文科系」向きの概説書・入門書・教養書を示したが、専門書・研究書も一部掲載した(176冊)。
- 7つのテーマごとに、原則として、発行年が新しい順に示したが、複数のテーマにまたがる本も少なくない(特に、文章の書き方と論文の書き方、論文の書き方と研究方法論)。原著と文庫・新書があるものは、入手しやすさを考慮して、確認できた限り後者を示した(カッコ内に原著記載)。
- 原則として品切れの本は除くが、有用と判断した本は紹介(*印。本学図書館に所蔵&Amazonでも古書購入可能)。
- 書名のゴチックは私のお薦め本。…以下は私のコメント、ゴチックは特に重要なポイント。
- は2017年度版(ver.19)への追加(8冊)。
- 2011年度版から、最後に、付録として「研究についての名言クイズ」(2018年度版, ver.11:41問) 上記統一導入講義とスクーリングで質問するので、予習し、答えを考えておくこと。

注意・警告:

文章・論文の書き方や調査法には「基本的ルール」があるが、読書法や研究法は研究者や研究分野によりかなり違うので、自分のフィーリングにあう本を選んで読み、「自分のスタイル」を身につけること。ただし、この種の本は各分野1~2冊読めば十分、沢山読み過ぎないこと。それよりも、自己の研究テーマ関連の優れた本・論文を精読し、論文の書き方や研究方法を「盗む」のが一石二鳥。****

1. 文章・論文の書き方(47冊)

<文章の書き方の入門書・基本図書(学部レベル。文章の書き方に自信のない院生も読むこと)>

毎日新聞校閲グループ『校閲記者の目—あらゆるミスを見逃さないプロの技術』毎日新聞出版, 2017

●…日本語表現のセンス・語感を磨く上で有用。

山口裕之『コピペと言われないレポートの書き方教室—3つのステップ』新曜社, 2013…コピペと言われないことに焦点化したユニークな文章の書き方。「おわりに—民主主義とレポート」は深い。

植竹伸太郎『凡文を名文に変える技術』文春新書, 2015. …元新聞記者が、カルチャー教室での添削指導の実例を示しながら、文章を磨く秘訣を丁寧に指導。「各論から総論へ」の構成がユニーク。

前田安正『きっちり! 恥ずかしくない! 文章が書ける』すばる社, 2013. …ベテラン校閲記者が、言葉の仕組みや助詞の使い方等を、悪い例文とその改善例を示し説明。「は」と「が」の違いは明快。

高橋俊一『すっきり! 分かりやすい! 文章が書ける』すばる舎, 2011. …「言葉の配置」と「点の打ち方」が分かれば、分かりやすい文章が書ける。「悪い例」と「良い例」を対比して原則を解説。

酒井俊樹『100ページの文章術』共立出版, 2011. …「読者に分かって貰うための文章」を書く術を明快に説明。特に、第3章「文章全体としてわかりやすくする[7つの]術」は有用。例文も豊富。

野内良三『日本語作文術－伝わる文章を書くために』中公新書, 2010. …文章の「型」を重視した実用文の書き方：文の長さは上限 50～60 字、段落は 200 字以内に 1 つ、「使える」定型表現の集大成。
飯間弘明『伝わる文章の書き方教室－書き換えトレーニング 10 講』ちくまプリマー新書, 2011. …伝わる文章の 3 条件（語彙力、表現力、論理力）を伸ばすための、ゲーム感覚で行えるトレーニング。
阿部紘久『文章力の基本－簡単だけど、だれも教えてくれない 77 のテクニック』日本実業出版社, 2009. …「良い文章＝明快な文章」。77 のテクニックごとに、例文と添削例を示し、やさしく解説。
石黒圭『文章は接続詞で決まる』光文社新書, 2008. …接続詞に特化した初めての文章を書くための本。

読みやすい文章の全体構造を支える接続詞使用の勘どころを、豊富な例文を用いて解説。

立濃和男『文章のみがき方』岩波新書, 2007. …「いい文章」を書くための 38 の心がけを、多くの名言を紹介しながら簡潔に解説。「Ⅲ. 推敲する」は研究論文を書く上でも有効。

樋口裕一『できる人の書き方－嫌われる人の悪文』ビジネス社, 2005. …ビジネスマンに、文章を書く心構えとコツを伝授。**最長 60 文字の目安**、「語彙」ではなく「論理」、**人の文章を添削**等。

樋口裕一『ホンモノの文章力－自分を売り込む技術』集英社新書, 2000. …文章とは自己演出だ。**自己推薦書の書き方**（第 3 章）は、就職活動時必読。

高橋昭男『大切なことは 60 字で書ける』新潮新書, 2005. …情報やメッセージを短い文で分かりやすく書くための技術を伝授。第 12 講の「正確な言葉より適切な言葉」は秀逸。例文が豊富。

清水義範『大人のための文章教室』講談社現代新書, 2004. …一般の大人のために文章をうまく書くためのコツや裏技を指南。第 7 講**近寄ってはいけない文章（学者の論文が筆頭！）**は痛い！

宮部修『文章をダメにする 3 つの条件』丸善ライブラリー, 2000. …ダメな文章とは、①事実や印象の羅列、②理屈攻め、③一般論。豊富な実例を用いて、文章の基本の基本を丁寧に説明。

<文章の書き方の中・上級書(学部高学年～大学院レベル)>

本多勝一『新装版 日本語の作文技術』講談社, 2005. …この分野の古典（朝日新聞社, 1987）の新装版。句読点の打ち方の章は秀逸だが、点の多い長文より、短文に分割する方が読みやすいと思う。

古郡廷治『論文・レポートの文章作成技法－論理の文章術』日本エディタースクール出版部, 2005. …論理的な思考力、文章力を養うための「文章教育」。文と文章の書き方の基本をていねいに説明。

古郡廷治『文章添削トレーニング－8 つの原則』ちくま新書, 1999. * …文章の書き方の原則を丁寧に解説。ポイントは**短い文を書く（1 文は 80～100 字を超えない）**。例文が豊富。

宇佐見寛『作文の論理－「わかる文章」の仕組み』東信堂, 1998. …看護界の重鎮（南裕子日本看護協会会長等）の「悪文」を徹底的に批判・添削。看護系院生必読。ただし、超シツコイ。

清水幾太郎『論文の書き方』岩波新書, 1959. …この分野の超古典。「が」を使うなは、今でも新鮮。

<論文の書き方の基本図書(学部レベル。論文の書き方に自信のない院生は 1 冊以上必読) >

樋口裕一『やさしい文章術－レポート・論文の書き方』中公新書ラクレ, 2002. …よい意味で「マニュアル」に徹している。鍵は、「小論文の延長線上で書く」。

古郡廷治『論文・レポートのまとめ方』ちくま新書, 1997. …論文の書き方を基本から徹底指導。

木下是雄『レポートの組み立て方』ちくま学芸文庫, 1994（筑摩書房, 1990）. …『理科系の作文技術』（後述）の文科系版。レポートに書くべきは、事実とその根拠を示した意見だけ等、明快・簡潔なレポートのコツを説く。

<論文の書き方の中・上級書(学部高学年～大学院レベル)>

P・J・シルヴィア『できる研究者の論文作成メソッド－書き上げるための実践ポイント』講談社,

2016. …インパクトのある実証論文を書くための奥義。「**共著論文執筆のヒント**」は類書にない。

P・J・シルヴィア『できる研究者の論文生産術—どうすれば研究論文をたくさん書けるのか』講談社, 2015. …書く気の有無にかかわらず決まった時間に書く、サポーターグループを作る等の心得。

細川英雄『増補改訂 研究計画書デザイナー—大学院入試から修士論文完成まで』東京図書, 2015. …技術論より「考えるための方法論」を重視: データ/先行研究/他者との議論の「インターアクション」等。

佐渡島紗織・他『レポート・論文をさらによくする「書き直し」ガイド』大修館書店, 2015.…学術的文章の初稿を形も内容も磨いて改善するための方法を、10編の文章の詳細な添削を通して伝授。

鈴木哲也・高橋桃子『学術書を書く』京都大学出版会, 2015…編集者の視点から、学術書を書くポイントを伝授したユニークな本。第Ⅱ部は博士論文の単行本化を旨とする若手研究者必読。

小磯明『「論文を書く」ということ—憂鬱な知的作業のすすめ』御著の水書房, 2014. …自己の修論・博論を「事例」としても用いながら、論文を書く心構えと書き方を丁寧、かつ体系的に述べる。

今野浩『ヒラノ教授の論文必勝法—教科書が教えてくれない裏事情』中公新書ラクレ, 2013…理系と文系の研究(者)の違いがよく分かる。7章(論文を量産する方法等)～9章は文理共通。

中村好一『基礎から学ぶ学会発表・論文執筆』医学書院, 2013. …保健領域の学会発表→論文執筆のプロセスとポイント、注意事項を丁寧に解説。第20章「**[学術誌] 編集委員会のやりとり**」は貴重。

戸田山和久『新版 論文の教室—レポートから卒論まで』NHKブックス, 2012. …卒論・修論を書くための36の「鉄則」を、読みやすく物語風に示す。アウトラインの作り方と論証の仕方が詳しい。

アメリカ心理学会著、前田樹海・他訳『APA論文作成マニュアル [第2版]』医学書院, 2011. …学術論文の書き方の事実上の国際標準。超上級書だが、英語の学術論文を書く院生や教員は必読。

川崎剛『社会科学系のための「優秀論文」作成術—プロの学術論文から卒論まで』勁草書房, 2010. …社会科学系査読論文の「型」と**学術雑誌攻略法**を丁寧に解説した上級書。博士課程院生必読。

小笠原喜康『新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書, 2009. …**わかりやすい文章にする「唯一の原則」は「一文を短くする」こと(30～40字)**。文献の引用法と検索技術が詳しい。

泉忠司『論文&レポートの書き方』青春出版社, 2009. …論文は「論理性」が命: 「問い」の立て方、暫定的文献リストの作成方法、論文の型は常に三拍子、パラグラフ・ライティングの理論と実際等。

細川英雄『論文作成デザイナー—テーマの発見から研究の構築へ』東京書籍, 2008. …「論文は対話活動」との立場から、執筆プロセス(テーマの発見～証拠の提示～主張～推敲)を詳述。やや思弁的。

細川英雄『研究計画書デザイナー—大学院入試から修士論文完成まで』東京図書, 2006. …技術論よりも「考えるための方法論」を重視: データ/先行研究/他者との議論の「インターアクション」等。

石原千秋『大学生の論文執筆法』ちくま新書, 2006. …大学生ではなく、院生・若手研究者向け。第一部「秘伝 人生論的論文執筆法」はユニーク&真っ当。有力研究者等のアイマイ表現を実名で批判。

酒井聡樹『これから論文を書く若者のために [大改訂増補版]』共立出版, 2006. …(理系)学術論文の各章で書くべきことを具体例を示しながら説明。**学術雑誌に投稿後の各段階での対処法**を詳述。

斉藤孝・西岡達裕『学術論文の技法 新訂版』日本エディターズスクール, 2005. …定評ある手引書(1977, 1988, 1998)の最新版。論文の注の書き方が詳しい(第5章)。

鹿島茂『勝つための論文の書き方』文春新書, 2003. …ハウツー本的书名だが、内容は高度。文献研究予定者は必読。「**良い**」だけでなく「**面白い**」論文を書くための「**問題の立て方**」等を講義。

野口悠紀雄『「超」文章法—伝えたいことをどう書くか』中公新書, 2002.…「**論述文の成功はメッセージが『ためになり、面白い』かどうかで決まる**」。良い意味で即物的で修論のチェックリストにもなる。

伊丹敬之『創造的論文の書き方』有斐閣,2001. …プロの論文を書くための研究のプロセスと心構え。テーマの決め方と仮説の育て方、付録が特に秀逸。上級書で、教員にも有用。

妹尾堅一郎『研究計画書の考え方—大学院を目指す人のために』ダイヤモンド社,1999.* …単なる大学院受験参考書ではなく、入学後も「修論計画書」を推敲するための指針書。計画書の添削時例は秀逸。

木下是雄『理科系の作文技術』中公新書,1981. …文章の組み立て方、パラグラフの意味、はっきり言いきる姿勢、事実と意見の区別等、実証研究論文の最良の指導書。文科系の実証研究予定者も必読。

2. 読書法(関連) (17冊) …研究・情報収集のための読書用(趣味の読書は除く)

池上彰・佐藤優『僕らが毎日やっている最強の読み方—新聞・雑誌・ネット・書籍から「知識と教養」を身につける 70 の極意』東洋経済,2016. …達人の真似ではなく「自分流のスタイルを構築」。

佐藤優『読書の技法—誰でも本物の知識が身につく熟読術・速読術「超」入門』東洋経済,2012, …博覧強記の著者の読書術を初めて体系化。「正しい読書法」だが、上級者でないと真似できない。

池上彰『池上彰の新聞勉強術』文春文庫,2011 (ダイヤモンド社,2006). …「週刊子供ニュース」の元名キャスターが書いた「メディア・リテラシー」を身につけるための本。日本経済新聞の問題点も指摘。

曾我謙吾「先行研究を読むとはいかなる営みなのか」『書齋の窓』2014~15 (ウェブ上に全文公開) …修論・博論を書くための先行研究の批判的読み方をていねいに解説: 常に時間対効果を考える。

齋藤孝『大人のための読書の全技術』中経出版,2014. …第1章(ルールづくり等)と第2章の速読技術(締め切り設定、逆算読書法、2割読書法、サーチライト方式等)は特に有用。

日垣隆『つながる読書』講談社現代新書,2011. …「発信することを前提に読む」「ソーシャル・リーディング」のノウハウ。第3章「書いて深める読書術」は正統的、第4章に読書会のノウハウ。

鹿田尚樹『10分間リーディング—速読しないで1冊読める!』ダイヤモンド社,2010. …「本は大事なところだけ読む」。毎朝、1冊10分間リーディング+20分間読書記録を日課にする技法を紹介。

松岡正剛『多読術』ちくまプリマー新書,2009. …「読書することは編集すること」という視点から、読前・読中・読後別に、松岡氏の方法を開陳。ポイントは「自分に合った読書スタイル」の確立。

高田明典『難解な本を読む技術』光文社新書,2009. …難解な思想書の「同化読み」の技術を、選書の仕方から、「読書ノート」のとり方、「読まない読書」まで丁寧に説明。理論研究希望者向き。

奥野宣之『読書は1冊のノートにまとめなさい』ナ・コホレト・コミュニケーション,2008. …読みっぱなしを止め、1冊のノートで、5段階の読書プロセス(探す・買う・読む・記録・活用)をマネジメント。

樋口裕一『差がつく読書』角川 One テーマ 21,2007. …第1部実読の方法は院生必読。「発信」のための効率よい「多読と精読の併用」技法を初歩から解説。特に5種類の多読テクニックは有用。

井上ひさし『本の運命』文春文庫,2000. …井上流本の読み方10箇条(第3章)は必読。

丸谷才一『思考のレッスン』文春文庫,2002(文春,1999). …柔軟な思考・読書・文章術のヒント。

中谷彰宏『大人のスピード勉強法—時間がない人の66の具体例』ダイヤモンド社,1999. …ビジネスマン向き実用書だが、効率的な読書・勉強のテクニックが豊富。

M・J・アドラー、C・V・ドーレン『本を読む本』講談社学術文庫,1997. …もつとも体系的な読書の技法書。読書には4レベルあり、中心は「分析読書」。文献研究予定者は必読。

立花隆『ぼくはこんな本を読んできた』文芸春秋,1995.* …「実践に役立つ14カ条」(73~75頁)。

内田義彦『読書と社会科学』岩波新書,1985. …「自前の概念装置」を獲得するための、社会科学の古典の精読の「心得」。「確信にあぐらをかくな」。歴史・理論研究予定者は必読。

3. 勉強法・研究方法論(論理的思考法、情報収集・整理の技法、知的生産の技術等) (31冊)

保城広至『歴史から理論を創造する方法－社会科学と歴史学を統合する』勁草書房, 2015. …「アブダクション」により、歴史研究の「中範囲の理論」構築の方法を提唱。博士過程の歴史研究向き。

岩崎晋也・他編『社会福祉研究のフロンティア』有斐閣, 2014. …52のテーマについて、基礎的な理論や実践と最新の研究動向を解説し、必読文献も紹介。社会福祉学研究の全体像を鳥瞰できる。

柳川範之『東大教授が教える独学勉強法』草思社, 2014. …独習で「答えのない問いに自分なりの答えを見つける」。第3章「勉強をはじめめる前にやっておきたいこと」～第5章は院生にも有用。

二木立『福祉教育はいかにあるべきか－演習方法と論文指導』勁草書房, 2013. …著者の日本福祉大学での教育の経験と工夫を集大成。第2章「研究論文指導はいかにあるべきか」は院生必読。

石原孝二編『当事者研究の研究』医学書院, 2013. …当事者の「手記」でも「運動」でもなく、当事者自身が自分たちの抱える問題を研究する「当事者研究」の理論と実際を初めて体系的に示す。

須田木綿子・他編『研究道：学的探究の道案内』東信堂, 2013. …22人の第一線研究者が若手研究者に研究の心構えとプロセスを伝授。**学術論文の投稿・査読の「体験」談は貴重**(第15～22章)。

福原俊一『臨床研究の道標－7つのステップで学ぶ研究デザイン』健康医療評価研究機構, 2013. …漠然とした疑問から研究の基本設計図への7つのステップを詳述。研究の出発点は医療者の「心」。

齊藤孝『偉人たちのブレイクスルー勉強術－ドラッカーから村上春樹まで』文藝春秋, 2010. …大人の勉強のポイントは「**自分にあったペース**」と「**自分の好きな方法**」。そのためのヒントを紹介。

池上彰『<わかりやすさ>の勉強法』講談社現代新書, 2010. …「わかりやすさを考える」3部作最終巻。プレゼン力の伸ばし方、新聞・本の読み方、細切れ時間の利用法等、池上流勉強法を紹介。

奥野宣之『情報は「整理」しないで捨てなさい』PHP, 2010. *…情報に幅広く触れつつ、取捨選択を瞬時に行う4段階の「情報の入口戦略」とテクニックを詳述。鍵は「**情報に序列を付ける**」。

東郷雄二『新版 文科系必修研究生生活術』ちくま学芸文庫, 2009. (夏目書房, 2000) …「スキルとしての学問」のノウハウを惜しみなく公開。先行研究の批判検討(第7章)は秀逸。主に昼間部院生向き。

石原武政『「論理的」思考のすすめ－感覚に導かれる論理』有斐閣, 2007. …理論・論理との付き合い方についての著者の試行錯誤を正直に語る。鍵は「**感覚の論理化**」。博士課程院生向き。

鎌田浩毅『ラクして成果が上がる理系的仕事術』PHP新書, 2006. …理系＝「**アウトプット優先主義**」&「**主知主義**」の立場から、著者と先人の開発した知的生産の技術の理念と技法を紹介。

二木立『医療経済・政策学の視点と研究方法』勁草書房, 2006. …第4・5章は社会福祉学を含めて、広く社会科学を学ぶ人が、自分なりの研究視点と方法・技法を身につけるヒントを満載。

岩田正美・他編『社会福祉研究法－現実世界に迫る14のレッスン』有斐閣, 2006. …社会福祉研究の独自性の探究。第3部は7つの研究事例を著者本人が研究方法の角度から解説しており、有用。

内田和成『仮説思考－BCG流問題発見・解決の発想法』東洋経済, 2006. …「情報が少ない段階から、常に問題の全体像や結論を考える」仮説思考は、ビジネスだけでなく研究でも不可欠。

和田秀樹『<疑う力>の習慣術』PHP新書, 2004. …**問題発見能力＝疑う力。自分の価値判断基準も疑ってみる。**ただし、「疑いすぎる」と泥沼に入る。「非常識」ではなく「脱常識」。

和田秀樹『大人のためのスキマ時間勉強法』PHP, 2003. *…10の基本原則は忙しい社会人院生向き。

苅谷剛彦『知的複眼思考法』講談社+α文庫, 2002(講談社, 1996). …東大での教育に基づく、一歩進んだ思考法。「批判的読書のコツ20のポイント」(第1章)、問いの立て方**(第3章)は特に有用。**

斎藤孝『「できる人」はどこがちがうのか』ちくま新書, 2001. …特定の領域の上達法ではなく、領域と領域の間を「またぎ越す」上達の普遍的論理＝まねる力、段取り力、コメント力の3つの力。

橋本治『「わからない」という方法』集英社新書,2001. …「わからないからやってみる」。

野口悠紀雄『「超」発想法』講談社,2000. …発想の5原則は重要。**KJ法を批判**。

野口悠紀雄『「超」勉強法』講談社,1995. …第1章の**勉強の基本3原則（面白いことを勉強する、全体から理解する、基礎を8割理解したら応用に進む）**は妥当だが、第2章以下の各論は大秀才向き。

野口悠紀雄『「超」整理法—情報検索と発想の新システム』中公新書,1993. …**時間軸を用いた整理法**は新鮮・有用。ただし、「適用限界」がある。

立花隆『「知」のソフトウェア情報のインプット&アウトプット』講談社現代新書,1984. …準古典。

高根正昭『創造の方法学』講談社現代新書,1979. …著者自身の米国での「普遍主義」的社会学研究体験に基づいて、具体的証拠に基づいて「理論と経験とをつなぐ」方法論を提唱。

梅棹忠夫『知的生産の技術』岩波新書,1969. …この分野の「超」古典、今でも新鮮。

川喜田二郎『発想法—創造性開発のために』中公新書,1967. …著者の案出した**KJ法**の原著。

<記憶力強化の技術>

伊藤真『記憶する技術』サンマーク出版,2012. …記憶力は一生鍛えることができる！丸暗記でなく、「使いこなす」ための記憶する技術の方法。全体像を把握、アウトプットを意識して記憶等。

徳田和嘉子『東大生が教える！超暗記術—基本から暗記のコツまで』ダイヤモンド社,2006. …「**暗記はすべての学問のもと**」。楽しく効率的で、しかも正統的な暗記の方法を公開。

南博『記憶術—心理学が発見した20のルール』カップブックス,1961. *…40年以上重版を続けた古典。特殊クニクではなく、ルール1「**記憶できるのだという自信をもつこと**」等、基本に忠実。

4. プリゼンテーション・学会発表の技法&議論・論争、会議司会の技術（12冊）

<プリゼンテーション・学会発表の技法>

渡部欣忍『あなたのプレゼン誰も聞いていませんよ！シンプルに伝える魔法のテクニック』南江堂,2014. …魅力的&論理的スライド作成のテクニック。修正例（第3章）は充実。パワポ使用者必読。

宮野公樹『研究発表のためのスライドデザイン』講談社ブルーバックス,2013. …分かりやすいスライドを作り、プレゼンを成功させるための「考え方（姿勢）」とデザイン的な「技術」を詳述。

黒木登志夫『知的文章とプレゼンテーション—日本語の場合、英語の場合』中公新書,2011. …日本語・英語共通の「知的三原則」は簡潔・明快・論理的。審査・評価の姿勢と文書の書き方は貴重。

齋藤裕之・他編『医療者のための伝わるプレゼンテーション』医学書院,2010. …スライド・ポスターによる研究発表の心構えと技法を丁寧に解説。最も伝えたいことは「**ポイントを最小限に絞る**」。

池上彰『わかりやすく伝える<技術>』講談社現代新書,2009. …テレビの解説で身につけた技術を詳述。まず「話の地図」を示す、図の矢印の使い方、「**三の魔術**」、**キーワード力**、**腹式呼吸**等。

酒井聡樹『これから学会発表する若者のために—ポスターと口頭のプレゼン技術』共立出版,2008. …分かりやすい発表をするための心がけと技法を伝授。**パワーポイントでの学会発表予定者必読**。

R・R・H・アンホルト、鈴木炎・他訳『理系のための口頭発表術』講談社ブルーバックス,2008. …「**論理と思考に重点**」を置いた口頭発表の手引き書。特に、**パワーポイント使用者は必読**。

梶原しげる『口のきき方』新潮新書,2003. …社会人大学院に入学しカウンセラーにもなったアナウンサーの体験的「口のきき方」。核心は「よく聴く」技術&日本語の語感に鋭くなる。

高井伸夫『3分以内に話はまとめなさい—できる人と思われるために』かんき出版,2003.*…簡潔で分かりやすい話し方の心構えとテクニック。**批判する時の鍵は「建設的**」。学会の発表・質疑にも有用。

<議論・論争、会議司会の技術>

福澤一吉『議論のレッスン』NHK出版（生活人新書），2002. …10年間のゼミ指導に基づく、口頭&読み書きレベルでの「議論のルール」。根拠・論拠を示し、許される範囲の「飛躍」をする。
香西秀信『反論の技術―その意義と訓練方法』明治図書，1995. …意見を述べるとは反論すること。
高橋誠『会議の進め方 [第2版]』日経文庫，2008. …会議を4種類（伝達・創造・調整・決定）に分類した上で、それぞれを効率性と創造性を合わせもった会議にするための技法を伝授。

5. 研究・研究者の心構え（15冊）

玉腰暁子・武藤香織『医療現場における調査研究倫理ハンドブック』医学書院,2011.…調査研究の計画・実施～論文発表の各段階の研究倫理を分かりやすく説明。福祉の調査・観察研究予定者必読。
細川英雄『研究活動デザイン―出会いと対話は何を変えるか』東京図書，2012. …「研究活動とは出会いと対話」の思いから、自己の研究と生活、仕事としての教育のあり方を整理した「自分誌」。
坪田一男『理系のための研究生活ガイド―テーマの選び方から留学の手続きまで 第2版』講談社ブルーバックス，2010. …明るく楽しい研究生活のノウハウ。読むとやる気がおこり文系院生にも有益。
酒井邦嘉『科学者という仕事―独創性はどのように生まれるか』中公新書,2006.…「科学とは疑うこと」、「一に模倣、二に創造」、「論文こそすべて」等は、文系研究者にも必要な心構え。
入江昭『歴史を学ぶということ』講談社現代新書，2005…歴史を学ぶことには2つの意味がある：過去の事実の記録と解明された事実の意味づけ。歴史はすべての研究者・院生が学ぶ必要がある。
船曳建夫『大学のエスノグラフィティ』有斐閣，2005. …東京大学の文科系教員の発想・生態とゼミ風景をサラリと描く。「遊び、それは学問そのもの」、「生産力とは集中力プラス持続力」。
林周二『研究者という職業』東京図書,2004.…自称「二流人間」が、実践的研究を行うための知恵と工夫を丁寧かつ正直に語る。「自己能力の客観評価」を行い、「他人のやらない盲点をねらえ」。
小森陽一監修『研究する意味』東京図書，2003. *…現実に批判的に介入し知の最前線で闘う研究とは？鍵言葉は好奇心・批判的スタンス・構想力・基礎的勉強。博士課程進学希望の院生必読。
宇野賀津子・板東昌子『理系の女の生き方ガイド―女性研究者に学ぶ自己実現法』講談社ブルーバックス，2000. …文科系の女性院生も必読。第1～3章以外は男性院生にも有用。
高木仁三郎『市民科学者として生きる』岩波新書,1999.…東大教授への道を捨て、反原発運動に生きた市民科学者の感動的自伝。末期癌による「死の予感のもとで」、明るく、確信と希望を語る。
寺田寅彦「科学者とあたま」『寺田寅彦随筆集第4巻』岩波文庫,1948,202-207頁.…科学者（研究者）論の超古典。科学者は「頭が悪いと同時に頭がよくなくてはならない」（頭が悪い＝「鈍感力」）。

<将来大学教授をめざす院生へ>

櫻田大造『大学教員 採用・人事のカラクリ』中公新書ラクレ，2011. …文科系大学教員になるための秘訣と「採る側の論理」を詳述し、教員志望院生必読。第5章「失敗ケースにも学ぶ就活術」。
鷺田小彌太『社会人から大学教授になる方法』PHP新書，2006. …第1章で、実際に大学教授になった18の事例を紹介しつつ、「10の法則」を抽出。第2章以降は、大学教授・大学改革論に近い。
鷺田小弥太『大学教授になる方法―実践編』PHP文庫，1995（青弓社，1991）. …研究業績の作り方等具体的。
鷺田小弥太『大学教授になる方法』PHP文庫，1995（青弓社，1991）. *…この種の本の草分け。**偏差値50前後なら努力すれば教授になれる。**ただし、逆説・偽悪的表現が多い。

6. 社会調査の入門書・副読本（54冊）

<量的調査> (参考書・教科書は山ほどあるので、文科系院生向きの代表的教養書のみ示す)

警告:「嘘には3種類ある。ただの嘘と真っ赤な嘘と統計だ。」(『マーケットウェイン自伝』)

佐々木弾『統計は暴走する』中公新書ラクレ, 2017●…「いかがわしい統計を見分け、見破る技術」

を伝授。統計詐欺、統計泥棒、統計迫害、統計殺人別に、例題→ヒント→解題と解題→教訓。

中室牧子・津川友介『「原因と結果」の経済学—データから真実を見抜く思考法』ダイヤモンド社,

2017●、伊藤公一朗『データ分析のカー因果関係に迫る思考法』光文社新書, 2017●

…2冊とも量的研究を予定している大学院生必読の統計的因果推論の入門書。相関関係と因果関係の混同を戒め、因果関係に迫る統計的推論の手法のポイントを数式を使わずに分かりやすく説明。

須藤康介・他『文系でもわかる統計分析』朝日新聞出版, 2012.…若手社会学者が対話形式でクロス集計から多変量解析まで、統計分析の原理と応用例を厚く記述。SPSSによる操作手順も紹介。

鈴木淳子『質問紙デザインの技法』ナカニシヤ出版, 2011. …質問紙法の体系的・実践的入門書。 **本調**

査実施前に予備調査を行う、質問作成では「誘導質問」に気をつける等。この調査予定者は必読。

アイリーン・マグネロ著、井口耕二訳『マンガ統計学入門—学びたい人のための最短コース』講談社ブルーバックス, 2010. …統計学の歴史と各手法の全体像を、数式抜きで、ザックリと説明。

上田尚一『統計グラフのウラ・オモテ—初歩から学ぶ、グラフの「読み書き」』講談社ブルーバックス, 2005. …良いグラフを書くための「統計的な考え方」を伝授。

森靖雄『新版やさしい調査のコツ』大月書店, 2005.…50年の経験に基づき、質問紙調査の技術とノウハウを丁寧に解説。「仮説主義」の呪縛も指摘。聞き取り調査と現地調査にも触れる。

川村孝『エビデンスをつくる—陥りやすい臨床研究のピットフォール』医学書院, 2003. …エビデンスは「現場で、臨床家の努力によって産み出されるもの」。量的調査予定者必読。

谷岡一郎『「社会調査」のウソ—リサーチ・リテラシーのすすめ』文春新書, 2000.…際物的タイトルだが、中身は正論。第1章「社会調査」はゴミがいっぱいを、修論への自戒とすること。

ダレル・ハフ『統計で嘘をつく方法—数式を使わない統計学入門』講談社ブルーバックス, 1968. …50年も重版を続けている超ロングセラー。特に **第10章統計のウソを見破る5つのカギ**は有用。

<質的調査(事例調査・フィールドワーク等)>

野田亜由美「研究方法としての事例研究—系統的事例研究という視点から」『お茶の水女子大学心理臨床相談センター紀要』16巻, 2014 (ウェブ上に公開) ●…事例研究の効用と限界、強みと弱み。

和田要『介護事例研究の手引き—ケーススタディをはじめよう! [第3版]』日総研出版, 2007●…介護分野のケーススタディの進め方を易しく解説し、具体例も示す。修士課程院生にも有用。

斎藤清二『事例研究というパラダイム—臨床心理学と医学を結ぶ』岩崎学術出版, 2003●…医師&臨床心理学者が自己の研究事例を紹介しながら「臨床事例研究」のあり方を論じる。博士課程レベル。

岸政彦・他『質的社会調査の方法—他者の合理性の理解社会学』有斐閣, 2016. …フィールドワーク、参与観察、生活史調査の3つの質的調査のノウハウを開陳。「読んで面白く現場でも役に立つ」。

武田丈『参加型アクションリサーチ (CBPR) の理論と実践—社会変革のための研究方法論』世界思想社, 2015. …直接的に地域の状況改善につながるCBPRの理論・方法・実践例を概説。

藤島薫『福祉実践プログラムにおける参加型評価の理論と実践』みらい, 2014. …メゾ (地域等) レベルでの社会福祉実践中心に、プログラム評価の先行研究を丁寧に検討し、著者の適用事例を提示。

好井裕明『違和感から始まる社会学—日常性のフィールドワークへの招待』光文社新書, 2014. エスノメソドロジーを中心に解説。補論2「質的調査方法論テキストの使い方」は充実。

萱間真美『質的研究のピットフォール—陥らないために 抜け出るために』医学書院, 2013.…院生指

導の経験に基づき、院生の陥りやすい落とし穴と抜け出すためのコツを丁寧に解説。教員にも有用。

田中千枝子・他『社会福祉・介護福祉の質的研究法－実践者のための現場研究』中央法規, 2013. …現場実践研究の意義と質的研究の醍醐味を研究事例から解説。本学「大学院ゼミナール」の成果。

笠原千絵・他編『地域のく実践を変える社会福祉調査入門』春秋社, 2013. …現場の実践者を想定し、「限定された現場での有効性」と「実際に現場を少し変える」ことを目指す。4つの事例付き。

ストリンガー、目黒輝美・他監訳『アクション・リサーチ』フィリア, 2011. …英語の定番教科書第3版の翻訳。実践者向けに、理論と方法から、形式の整った報告書の書き方に至るまで詳述。

筒井真優美編『研究と実践をつなぐアクションリサーチ入門－看護研究の新たなステージへ』ライフサポート社, 2010. …本法の背景～研究の進め方、研究成果の発表方法を解説。看護系院生必読。

小田博志『エスノグラフィー入門－く現場くを質的研究する』春秋社, 2010. …「人々が生活している現場を理解するための方法論」エスノグラフィーを使い、「現場力」と「概念力」を身につける。

F・ローゼンツワイク『なぜビジネス書は間違えるのか－ハロー効果という妄想』日経BP社, 2008. …ビジネス領域に限らず、「**ケーススタディ**」**予定者必読：「成功例だけを取り上げる」妄想等。**

佐藤郁哉『質的データ分析法－原理・方法・実践』新曜社, 2008. …質的研究によくみられる「薄い記述」を「厚い記述」に変える方法や手がかりを、原理編と実践編に分け詳述。博士課程院生向き。

佐藤郁哉『フィールドワーカー書を持って街へ出よう [増補版]』新曜社, 2006. …質的調査と量的調査の「恥知らずの折衷主義」。「基本の基本」を紹介した入門書。各技法の詳細は書いていない。

佐藤郁哉『フィールドワークの技法－問いを育てる、仮説を鍛える』新曜社, 2002. …フィールドワークの技法の詳細を実践的に紹介。「**『仮の答え』としての仮説を練り上げる**」ことを強調。

高橋都・他編『事例から学ぶはじめての質的研究法 医療・看護編』東京図書, 2007. …16人の執筆者による自論文の概要説明、執筆プロセスの紹介と初学者への助言。特に看護系院生には有用。

鈴木淳子『調査的面接の技法 第2版』ナカニシヤ出版, 2005. …体系的かつ実践的な入門書（教科書）。

アリソン・モートン＝クーパー著、岡本玲子・他訳『ヘルスケアに活かすアクションリサーチ』医学書院, 2005. …この分野のわが国初の単行本。現場での「小規模介入」研究予定者は必読。

好井裕明『「あたりまえ」を疑う社会学－質的調査のセンス』光文社新書, 2006. …著者の経験と優れた著作の解釈を通して、「調査する精神」の真髄を語る。グラウンデッド・セオリーを批判。

小田豊二『「書く」ための「聞く」技術』サンマーク出版, 2003. * …聞き書きの名手が開発した、体験的かつ体系的インタビューの技術。初級からプロのテクニックまで。

関満博『現場主義の知的生産法』ちくま新書, 2002. * …「歩く経済学者」が「一生もの」として現場の人々とじっくりつきあい調査し、書籍にまとめるノウハウを開陳。現場の「両極端に注目」。

平山尚・他『ソーシャルワーク実践の評価方法－シングル・システム・デザインによる理論と技術』中央法規, 2002. * …SSD（単一事例実験計画法）の基礎・原理と応用方法をていねいに解説。

根本博司・他編『初めて学ぶ人のための社会福祉調査法』中央法規, 2001. …社会援助活動関連の質的調査と量的調査の基礎を解説。**第1部事例調査法は有用。**

小池和男『聞きとりの作法』東洋経済新報社, 2000. * …事例調査&アンケート調査予定者必読。聞きとり調査前の「仮説の設定」の大切さ。まず聞き取り調査を行ってから、アンケート調査を併用。

安梅勅江『ヒューマン・サービスにおけるグループインタビュー法－科学的根拠に基づく質的研究法の展開』医歯薬出版, 2001. 『II－活用事例編』2003. …具体的分析方法・コツを丁寧に解説。

S・ヴォーン、他『グループインタビューの技法』慶応義塾大学出版会, 1999. …フォーカス・グループインタビューの概念と技法をていねいに解説。

<事例調査の参考になるルポルタージュ・ノンフィクション論> (いずれも読み物としても面白い)

佐野眞一『目と耳と足を鍛える技術－初心者からプロまで役立つノンフィクション入門』ちくまプリマー新書, 2008. …自著を例に、取材・構成・執筆の方法を詳述。最も大切なのはテーマの選択。

野村進『調べる技術・書く技術』講談社現代新書, 2008. …ノンフィクションの方法と作法を具体例を交え詳述。第1～4章はインタビュー調査予定者にも有用（特に**取材の依頼文と礼状の例文**）。

佐野眞一『私の体験的ノンフィクション術』集英社新書, 2001. …体験的事例調査法としても有用。

本多勝一『ルポルタージュの方法』朝日文庫, 1983. *…自作の執筆過程を紹介しながら、ルポの書き方を講義。鍵言葉は現場・人間関係・誠意。**ルポライターの6条件** (277頁) は研究者にも妥当。

<「質的研究」全般の概説書・教科書>

佐藤郁也『社会調査の考え方(上・下)』東京大学出版会, 2015. …①社会調査での試行錯誤のプロセスと②用語の混乱中心に、「基本の基本」を丁寧に解説。第6章「仮説を鍛える」は特に有用。

コービン&シュトラウス、操華子・他訳『質的研究の基礎 グラウンデッド・セオリー開発の技法と手順 第3版』医学書院, 2012. …シュトラウス派GTの最新版教科書。GTを用いたい院生必読。

ウヴェ・フリック、小田博志監訳『新版 質的研究入門－〈人間の科学〉のための方法論』春秋社, 2011. …「入門書」ではなく、高度でバランスのとれた概説書。監訳者の解説と用語翻訳メモも充実。

キャサリン・ポープ他『質的研究実践ガイド－保健・医療サービス向上のために [第2版]』医学書院, 2008. …「量的研究を補完」する質的研究のもっとも分かりやすい入門書。

キャロル・ガービッチ、上田礼子・他訳『保健医療職のための質的研究入門』医学書院, 2003. …質的データの収集、解釈、発表の方法論と技法について、主なものを公平かつ幅広く解説。

<「混合研究法」(複数の研究方法の統合)の概説書とそれを用いた優れた研究書>

T・チャールズ、他『混合研究法の基礎－社会・行動科学の量的・質的アプローチの統合』西村書店, 2017●…より進んだ博士課程レベルの教科書。第8章「混合研究法におけるサンプリング」は有用。

抱井尚子『混合研究法入門－質と量による統合のアート』医学書院, 2015年. …「質的研究主導型混合研究法」の歴史、概念と最新の研究動向、および同研究法の諸流派について概説。

木原雅子・木原正博訳『現代の医学的研究方法－質的・量的方法、ミクストメソッド、EBP』医学書院, 2012. …主な方法の最新百科事典。「ミクストメソッド」と「参加型研究」予定者は必読。

C・ポープ他『質的研究と量的研究のエビデンスの統合：ヘルスケアにおける研究・実践・政策への活用』医学書院, 2009. …両研究のエビデンスを政策や臨床の意思決定に活用できる形に統合。

冷水豊編『「地域生活の質」に基づく高齢者ケアの推進－フォーマルケアとインフォーマルケアの新たな関係をめざして』有斐閣, 2009. …茅野市をフィールドに、多様な質的・量的研究方法を統合。

山崎喜比古・井上洋士編『薬害HIV感染被害者遺族の人生－当事者参加型リサーチから』東京大学出版会, 2008. …面接調査＝質的研究と質問紙調査＝量的研究をリンクした、当事者参加型研究。

7. 英語力をつけるための本・雑誌 (略。興味のある院生は「2017年度版」参照)

警告：院生に必要なのは英会話力ではなく、英文読解力＝速読&精読術！

(2018. 2. 2～3. 2 謹製)

付録：研究についての名言クイズ 41 問 (2018 年度版, ver.11)

(「二木立の医療経済・政策学関連ニューズレター」=NL。いのちとくらし非営利・協同研究所のホームページに転載：<http://www.inhcc.org/jp/research/news/niki/>。)

●：2018 年度版に追加。

※「統一導入講義」で用いるので、各自答えを考えておくこと。

●澤田昭夫（歴史学者）「『理解を伴った××』は教育においても学問研究においても大切です」

(『論文の書き方』講談社学術文庫, 1977, 221-222 頁。NLNo. 156)。

○酒井邦嘉（脳科学研究者）「[研究は] 一に××、二に創造—『どのように研究するか』は、言い換えれば××の段階である。そして、『何を研究するか』は、創造の段階に対応する」(『科学者という仕事』中公新書, 2006, 46 頁。NLNo. 22)。

○千住博（日本画家）「創造的な能力は××力から生まれる。(中略) ××することによって、いわゆる想像力が生まれてくる。ただ勝手に生まれた想像というのは、単なる空想にすぎない」(『UP』2014 年 7 月号: 2 頁、座談会「創造的な能力とは」。NLN. 123)。

○津山直一（東大医学部教授）「無知な者ほどたくさんの××をする」(NLNo. 11)。

○ある数学の先生「私はたしかに専門バカだ。けれど君らは××××だ」(佐伯啓思『学問の力』NTT出版、2006、25 頁。「学生運動の時代に、運動家の学生から『専門バカ』と呼ばれた」先生がこう言い返した「話もあります」と紹介。NLNo. 28)。※この先生は、日本が誇る数学者・小平邦彦氏（当時・東京大学理学部長）（小平邦彦『ボクは数学しか出来なかった』岩波現代文庫, 2002, 148-149 頁）。

○ニーチェ「××は嘘よりも危険な真理の敵である」(『人間的、あまりに人間的』。池尾健一訳『ニーチェ全集第 5 巻、理想社、1964、365 頁。NLNo. 30, 97)。

○福岡伸一（青山学院大学教授）「知的であることの最低条件は××××が出来るかどうかということ」(『生物と無生物とのあいだ』講談社現代新書, 2007, 67 頁。NLNo. 37)

●釈徹宗（宗教学者）「自分が“×××”と思った瞬間から、見えなくなるものがある(中略) 我々はすぐに偏ってしまうのである。どんなに『×××』と思われるような思考も行為も、次第に偏っていく」(『落語に花咲く仏教』朝日新聞出版, 2017, 168 頁。NLNo. 159)。

○フランシス・ペレス（スペインの経験豊かな科学者）「科学者にとって、『わかりません』は、『私は××があります』と同義語です。××がない人間だけが、知っているふりをする必要があるのですから。『わかりません』は、『私を信じて大丈夫です』という台詞とも同義語です。自分の知っていることと知らないことを、必ず区別して話します、という意味なのですから」(スティーブ・デスーザ、ダイアナ・レナー著、上原裕美子訳『「無知」の技法 Not Knowing』(日本実業出版社, 2015, 190 頁)。NLNo. 141)。

○サルトル（フランスの実存主義哲学者）「理解するとは×××ことであり、自己の彼方へ行くことである」(『方法の問題』白水社, 1962, 26 頁。NLNo. 48)。

○奥田愛基（SEALDs 創設メンバー）「×××の相違で敵を作らない」(『AERA』2015 年 12 月 28 日号: 69 頁、「現代の肖像」。NLNo. 139)。

く作業から逃避するための××だ」(King LS:“Why not say it clearly?” Little, Brown and Company, 1978, p.103. NLNo.36)。

●**樋渡貴晴**(愛知・刈谷豊田総合病院医療ソーシャルワーカー)「単なるインプットではその理解の質と量に限界があること、そして××のあるアウトプットがあつてこそ、インプットはより注意深く吸収でき、また自身の認識も研ぎ澄まされる」(MSW lab brog.2017年6月3日。NLNo.158)。

○**池田正行**(長崎大学医歯薬総合研究科教授)「論文を書かないってことは、××されないで済むってことだからね」「論文を書くということは、すなわち××されることにほかなりません」(「日経メディカル オンライン」2011年12月2日。NLNo.91)。

○**ワトソン**(分子生物学者)「×××に仕事をしたくない人は、科学者には向かない」

(「毎日新聞」2008年11月4日朝刊「余録」。NLNo.52)

○**大村文子**(2016年ノーベル生理学・医学賞受賞者大村智氏の母。小学校教員・当時)「教師の資格は自分自身が××していることである」(「日本経済新聞」2016年8月3日朝刊、大村智「私の履歴書③」。NLNo.146)。

○**伊藤整**(作家)「あなたはこれから先、プロの作家としてやっていくのだから、いつも少しだけ××な状態の中に置くようにしなさい」(城山三郎『少しだけ、××をして生きる』新潮文庫,2012,84頁。NLNo.101)。

○**諏訪兼位**(日本福祉大学学長・当時)「人間は×××ときに良い仕事ができると、私は信じております」(2003年2月20日の大学評議会での発言。NLNo.13)。

○**上出洋介**(名古屋大学名誉教授)「研究者にとっての論文十ヶ条(中略)8.×××て論文を書けないというのは、いいわけにはならず、能力がないといっているのと同じである」(『アクセプトされる論文の書き方』丸善出版,2014,30-31,65-66頁。NLNo.123)。

○**阿部謹也**(一橋大学学長)「学者は×××と思った瞬間ダメになる」(「朝日新聞」1999年12月17日夕刊。『医療経済・政策学の視点と研究方法』勁草書房,2006,165頁)。

○**ハマトン**(『知的生活』著者)「時間を空費させるもっとも大きな敵は、下手な××だ」(渡部昇一『知的生活の方法』講談社現代新書,1976,160頁。NLNo.36)。

○**フックス**「ハードに学べ、しかしもっと重要なのは××××に学ぶこと」(上掲論文。NLNo.10)。

○**利根川進**(分子生物学者。1987年ノーベル生理学・医学賞を受賞)「よく科学者にはオリジナリティがなければいけないというでしょう。(中略)大切なのは、オリジナルでかつ×××が高いことをやることです。人がやっていないことなら何でもオリジナルで、だから研究する価値があると主張するのは間違いだと思いますね」(立花隆・利根川進『精神と物質—分子生物学はどこまで生命の謎を解けるか』文藝春秋,1990,90頁。NLNo.92)。

○**山根一真**(ノンフィクション作家)「オタクは×××を持たない趣味人のこと。×××を持って何かに没頭している人はプロフェッショナルと呼ぶんです」(「日本経済新聞」2008年11月20日夕刊「デジタル化する社会—山根一真さんに聞く」。NLNo.53)。

○**梅棹忠夫**「いわゆる『××』ができないというのは、今日においては、研究能力がないと

